

第1回 第4次泉大津市総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時	平成26年5月27日（火曜日） 13:30 ～ 15:00
場 所	市役所5階 第一会議室
出席者 (敬称略)	<p>会 長：澤田 隆生（泉大津商工会議所） 副会長：久 隆浩（近畿大学総合社会学部） 委 員：中谷 昭（泉大津市議会）、長田 実（泉大津市議会）、村岡 均（泉大津市議会）、堀口 陽一（泉大津市議会）、吉村 譲（泉大津市自治会連合会）、千百松 茅子（泉大津市民生委員・児童委員協議会）、北山 貴史（泉大津市PTA協議会）、河野 あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科）、城下 英行（関西大学社会安全学部）、藤村 裕爾（大阪大谷大学教育学部）、山本 賢次（泉大津市）、田川 静一（市民）、溝口 和彦（市民）、久井 孝則（市民）、田々美 稔（市民）、東島 有子（市民） （欠 席：田中 一吉（泉大津市議会）、中 透（泉大津市医師会）） 事務局：伊藤市長、檜葉総合政策部長、三井総合政策部理事、虎間企画調整課長、大内企画調整課総括主査、森田企画調整課総括主査、山本企画調整課係員</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長あいさつ 3 委員の紹介 4 会長、副会長の選出について 5 会長あいさつ 6 第4次泉大津市総合計画（案）の諮問について 7 本日の議事の進め方について 8 第4次泉大津市総合計画【骨子案】等について 9 市民満足度調査の実施について 10 閉 会

■議事概要

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 委員の紹介
- (4) 会長、副会長の選出について
 - ・互選により、会長に澤田委員、副会長に久委員を選任
- (5) 会長あいさつ
- (6) 第4次泉大津市総合計画（案）の諮問について
 - ・市長から本審議会へ泉大津市総合計画（案）を諮問
- (7) 本日の議事の進め方について
- (8) 第4次泉大津市総合計画【骨子案】等について

○セーフコミュニティの認証に向けた取組との整合性について

委 員：市が進めているセーフコミュニティの認証に向けた取組と、総合計画との整合性はどうか。

事務局：重要な事項と認識しており、基本理念の「安全・安心」につながるものと考えている。また、基本計画のねらいにおいて、安全・安心に関する重点的な取組内容を記載している。

○次世代を担う青少年の育成に関する取組について

委 員：20代、30代の次世代を担う世代の育成が重要だと考えているが、どのように取り組ん

でいくのか。

事務局：基本計画のねらいにおいて、教育に関する取組の方向性を記載しており、基本施策の1つに「青少年育成」を設け、具体的な施策を記載する予定である。

○泉大津市の歴史の掘り起し及びその継承に向けた取組について

委員：市内にある弥生時代の遺跡等の活用や、新たな歴史の掘り起し、子どもの頃から地域の独自文化に触れる等の継承が重要だと考えているが、どのように取り組んでいくのか。

事務局：基本計画のねらいにおいて、観光に関する取組の一環として、歴史・文化等の歴史資源を活かしたまちづくりを推進していくことを示している。

○基本理念について

委員：「コンパクト」という言葉は、本市の特長を示すもので良いが、具体性に欠ける。コンパクトであるために、スケールメリットや機動性があるなど、表現を検討する必要がある。

委員：3つの理念を三角形の頂点に位置付け、まちづくりの将来像との関係性を示したイメージ図を掲載しているが、3つの理念が持つ性質を踏まえ、もう少し表現を検討してはどうか。

○計画の推進に向けた各主体の役割について

委員：計画をどのように実行していくかが、市民の関心ごとである。誰がどのように施策を遂行していくのか、明確にしてほしい。

(9) 市民満足度調査の実施について

○成果指標の設定や進行管理について

委員：成果指標について、目標値を設定するのか。また、その場合の設定方法や、目標を達成できない場合の対処方法等はどのように考えているのか。

事務局：5年後、10年後の数値を記載する予定である。設定方法については、国の数値を参考にするものや過去のトレンドで設定するなど、指標の性格に応じて設定していくことを考えている。目標を達成できない場合は、目標値の上げ下げだけでなく、指標の見直しや事業の方向性を見直し等も含め、弾力的に対応したいと考えている。

委員：他市でも成果指標を設定している例があり、実際に指標を運用する段階になって、成果指標の表現が分かりにくいものや、当初の予定よりも早く目標達成するものなどがあった。実践してみないと分からない部分もあり、その場合は過去にこだわらず変えていけばよいと思う。また、成果指標だけでなく、補助指標等を設定し、毎年チェックしている自治体もある。2年に一度でもよいので、指標を継続してチェックしていくことが大事である。

事務局：市民満足度の評価とは別に、各課の持っている事業実績等も成果指標として併記していくことも想定している。

○市民満足度調査の設問内容や対象者について

委員：学校教育の満足度を尋ねる設問がない。市民アンケート結果では、学校教育については、満足度が低く、重要度の高い項目となっているので、追加を検討して欲しい。

事務局：本日お示ししている資料は案であり、現在部会で検討を進めており、そのなかで新たに設定することを考えている。

委員：「文化・芸術・スポーツが暮らしに潤いを与えていると感じる」のような文言では、文化と芸術と、スポーツで異なる意見を持つ方もおられる。まとめすぎると個別の意

見が把握できない可能性があるため、もう少し細かく設定するなどを検討してはどうか。

委員：他市でも市民満足度を問うアンケート調査を実施している例はあるが、妥当な目標値の設定方法など、難しい面もある。不特定の一般市民に対して満足度を問うことは別に、各施策分野に関与している特定の当事者に満足度を問う視点も大切である。

○一般市民の身近な意見を市政に反映する方法について

委員：私の周辺には市の取組が実感しにくいと感じている人が多いように思う。一般市民の身近な意見をどのように市政に反映していくかについても考えて欲しい。

以上